

未知スタイル

5月号

復興への道 大震災と道の駅



東北地方太平洋沖地震 道の駅はどう対応したのか

6駅の事例から震災における
道の駅の役割を明示する



たろう 道の駅防災拠点化のモデルケース

おにぎりも毛布もない一時避難所には情報を求めて人々が集まった。「情報こそ命」極限状態で人々はどう行動するのか。

はたして防災拠点として道の駅は機能できるのか。

いたこ 液状化と原発の風評被害

液状化を乗り越えの2週間後に営業再開。

原発の風評被害の克服に挑む。

上品の郷 販売継続で被災者を支援

次々と発生する想定外の事態。それでも決して営業を止めようとはしなかった。殺到するお客様にどう対応したのか、スタッフへの指示は？太田駅長が全国の道の駅に訴える「震災備忘録20カ条」

那須高原友愛の森

県外からの避難者への相談窓口

福島からの避難者を救え！県が総合相談所を設置、地元ボランティアも集まり、文字通り地域ぐるみの対応が始まった。行政・民間連携のモデルケースを詳細レポート。



林林館 連合・連携で復興に取り組む

いわいずみ 水と食材に復興需要

特集アンケート

震災の影響

震災発生以降、来場者数の影響を受けた道の駅は全国で7割、震災で商品や資材の調達の面で影響を受けた道の駅は6割にのぼる。被災地支援に関する取り組み、具体的な被災地支援の内容、震災を受けて災害対策の再確認や見直しを行ったかについて、各地方ごとに分けて比較、分析。



道の駅探検記 北海道&九州 連載中